

基礎看護学

(令和4年度1年生用)

専門分野

授業科目	看護過程	講師	氏名	清水 京子	開講年次	1年次 後期	単位・時間	2単位 45時間
			所属	専任教員				
			実務経験	臨床看護師				
科目のねらい	看護過程とは、看護理論と看護実践をつなぐものであり、看護の目標を達成するための科学的な問題解決法を応用した思考過程の道筋とされ、系統的・網羅的な思考過程である。しかし、その看護過程を活用して看護を展開するためには、問題に気づく力、批判的思考や意思決定能力、創造的思考などの知的技能が必要となる。特に即興的な判断とアクションを求められる看護の現場では、「気づき」から「何が起き、何が重要であるか」を判断しなければならない。それは、看護過程の系統的・網羅的な思考過程では困難であり、臨床判断モデルの活用となる。 つまり対象に応じた看護の展開を行うためには、看護過程という思考過程と併せて臨床判断モデルの活用も重要になる。ここでは、まず「気づき」の重要性から臨床判断モデルを理解し、その上で看護を展開していくための看護過程の意義を学び、その実践をロイ適応看護理論を基に実施することで問題解決能力を身につける。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床判断モデルの概要として、「気づき」「解釈」「反応する」「省察」を説明できる。 2. 看護実践における看護過程の意義・定義を説明できる。 3. 看護過程は立案プロセスと運用プロセスにより成り立ち、その構成要素について説明できる。 4. 看護過程と看護診断の関係を基に看護診断プロセスを活用して問題の妥当性を検証できる。 5. ロイ適応看護理論を使った看護過程の特徴を説明できる。 6. 事例に対し、ロイ適応看護理論を使った看護過程のプロセスを実施できる。 							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床判断モデル」と「看護過程」の関係について説明できる。 2. 臨床判断モデルのプロセスから、何故「気づき」が重要であるか、どのような「気づき」が必要なのかを考察できる。 3. 場面から、「気づき」「解釈」「反応する」「省察」を経験し、看護師にとって必要な「気づく」とは何かを考察できる。 4. NANDA-I看護診断を使って問題の妥当性を他者と検証し、適切な看護診断を提案できる。 5. ロイ適応看護理論に基づき、刺激を明確にすることが介入を具体的に提示できることを実感できる。 							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の考えを言葉や文字で表現できる。 2. 他者の意見を受容しつつ、積極的に質問や意見を伝えることができる。 3. 自分と他者の「気づき」の違いを評価し、その違いに影響を与えている因子に対し解決策を相談できる。 4. メンバーと協力しながらグループワークに参加できる。 5. 積極的に文献を検索し活用できる。 							
科目評価	事例演習レポート	40%	課題レポート	40%	演習参加状況	20%	合計100%	
テキスト	ロイ適応看護理論の理解と実践 (医学書院)		NANDA-I看護診断 (医学書院)		系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ (医学書院)			
参考文献	アセスメントに自信がつく臨床推論入門 (メディカ出版)		臨床判断ティーチングメソッド (医学書院)					
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	1. 看護を展開するために必要な道具「看護過程」と「看護理論」	<input type="radio"/>			清水京子	看護理論の基礎 看護展開実習	確認テスト (ロイ適応看護理論について)	
2		<input type="radio"/>						
3	2. ロイ適応看護理論の概要	<input type="radio"/>						
4	3. 看護を展開するために必要な道具とは何か。「臨床判断」と「看護過程」		<input type="radio"/>					
5	4. 場面から考えてみよう！「あなたが今考えたことは？」「気づき」ということ		<input type="radio"/>					
6	5. 臨床判断モデルの概要とその重要性	<input type="radio"/>						
7		<input type="radio"/>						
8	6. ロイ適応看護理論を基に看護過程を使って看護を展開してみよう。 1) 患者さんと出会ったら、まず何をする？ロイ適応看護理論をどう使うか。 2) 必要な情報とは何か。 3) 看護実践と情報収集 4) 患者に何が起きているか整理してみよう(関連図) 5) 看護診断プロセスとは？ 6) 適切な計画立案とは？ 7) 看護過程の運用プロセスを考えよう。 8) 評価をすること 9) 適応し続けるための看護の展開	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				随時、指示された課題の提出 個人ワークを基に、グループワークを行う	
9		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
10		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
11		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
12		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
13		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
14		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
15		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
16		7. 看護過程を記録することの意味	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
17	8. 事例展開シミュレーション(看護過程と臨床判断)		<input type="radio"/>				演習計画を提示する。	
18			<input type="radio"/>					
19			<input type="radio"/>					
20			<input type="radio"/>					
21			<input type="radio"/>					
22			<input type="radio"/>					
23	まとめ	<input type="radio"/>						
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							